

# 十勝の土壌と農業

## Part 4

筒木 潔

帯広畜産大学名誉教授

土壌学

<https://tsutsuki.net>

Part 4

戯曲「火山灰地」（久保栄）

に描かれた戦前の十勝の土壌と農業

# 火山灰地

久保 栄 著

昭和12年第一部発表

昭和13年第二部完成

## 玲子

むかし旭岳や十勝岳がまだ活火山だった時分に、  
この平野にいっぱい灰が降って、  
今も降ったまんまになっているんですってね。

なぜ空へあがった火山灰は、石狩の方へ  
たなびかないでこっちへ降るの？

雨宮

火山灰の降っていたころか.....

玲子...きっと...今に...この平野の上に...もう一度火山灰が...

玲子

え?...なにをいってらっしゃるの？

雨宮

十勝嶽や石狩岳が...また荒れだすときがあるかもしれない

.....

だが、その灰の下で、お父さんと...おれとおまえは、  
どんなふうにして会うかなあ。

# 戯曲「火山灰地」における雨宮場長のラジオ放送における台詞

## 雨宮

この支庁管内の畑をずうっと歩いてごらんになると、赤い土のところと黒い土のところに分かれていることにお気がつくでありますよ。

...ええ...赤い土のほうが**泥炭地**でありまして、黒い土の部分がいわゆる**火山灰地**であります。

いずれも**特殊土壌**でありまして、したがってこの管内における農地経営も特殊でなければならぬわけですよ。

## 雨宮

ええ...冷害とか...水害とか...凶作とかに悩まされて...

どれほど勤勉に働いても...

なおかつ**窮乏のどん底**からぬけ出られない

**大多数の農家**に対しまして、

わたくし、微力ながら...少しでも学問の力を利用して...

なんとかして**農家全体に...全体にであります...**

**幸福をもたらしたい.....**

## 雨宮

ええ、**略奪農業**ということを申します。  
すなわち、土から作物を奪えるだけ奪えば、  
あとは地力が衰えようが、収穫が逡減しよう  
が一切かまわない、  
いきあたりばつたりに肥料はやっても...  
**三要素を科学的に配合して、土地に養分を還元することなどは考えもしない...**

## 雨宮

N・P・Kの三要素ということを化学肥料のほうで申します。

窒素、燐、カリ...この三つのうちどのひとつが不足しましても

地味が衰え、収穫が逡減する...

だんだん作物がとれなくなります。

したがって、**地力を保つためには、この三つの要素を一定の比率をもちまして、過不足なく、絶えず補給して補っていくことが必要であります。**

この後、気分が悪くなって放送を中断する。

## 雨宮（恩師の滝本教授への説明）

ええ、内地では、**人肥とか堆肥とか灰**のなかに、**カリが多量に含まれて**いましてね...つまり

**農家じゃ意識せずにカリ分の補給を**

**昔からやっておった**わけですが...

こんなことになぜ今まで気がつかなかったろうと自分でも思うくらいでして...

カリ分の必要性を認めていなかった滝本教授の気分を害してしまう。

# アジア・太平洋戦争前の 十勝の農業

- 開拓後50年に満たない十勝の農業は「略奪農業」として認識されていた。
- 投機的な商品作物、豆類、でんぷん馬鈴しょと軍需国策作物亜麻・甜菜への偏重。
- 国策に基づく硫安（火薬の副産物）と過リン酸石灰に偏った施肥。
- 単作と連作。
- 大地主による小作人と土地の搾取。